

情報学委員会 情報学教育分科会（第 24 期：第 2 回）議事録

日時 平成 31 年 1 月 10 日（木）11:00 - 12:20

会場 日本学術会議 5 階 5-C(1) 会議室

資料

1. 前回議事要旨（案）
2. 情報教育の参照基準（2018.12.10 版）
3. 情報学分野の全学教育

出席者（敬称略）

萩谷（委員長）、徳山、今井、岩田、上田、来住、住井、谷口、松井、湊、
久野、岩崎

議事

1. 前回議事要旨の確認

資料 1 の第 24 期第 1 回議事要旨（案）を承認した。

2. 情報教育の参照基準・公開シンポジウムについて

萩谷委員長より、昨年からの経緯について説明があった。続いて久野委員より、
資料 2 に基づき、情報教育の参照基準（2018 年 12 月 10 日版）について説明があった。
本文は 20 ページに納まるようにしており、内容的に前回から大きな修正はない。

さらに、萩谷委員長より以下のような説明があった。

- ・本参照基準をこの内容でまとめ、24 期中に出すこととしたい。
- ・2019 年 5 月 18 日(土) に、東京大学山上会館で公開シンポジウムを開催したい。
この日程は、高等学校の先生も参加しやすいということで決定した。この日に、
本分科会も開催する。
- ・公開シンポジウムの内容は、本参照基準の説明はもちろんのこと、情報入試、

教員研修なども含めていく予定である。

公開シンポジウムを、上記日程で開催することを承認した。

また、本参照基準に関連して以下のような意見交換があった。（発言した委員名は括弧内に記す。）

- ・（徳山）本参照基準は、できれば今年中に出したい。
- ・（徳山）各学校の段階で何をやるかというものが欲しい。たとえば「小学校版」「中学校版」など。
- ・（久野）指導要領の変化に影響を受けない形で、本参照基準をまとめた。
- ・（来住）「参照基準 2019」のように、年度を明記するのが良いのではないか。また、将来の改訂スケジュールも出せば良いのではないか。
- ・（萩谷）「6 年度を目途に改訂」のような書き方でも良い。

3. 情報学分野の全学教育について

萩谷委員長より、資料 3 に基づき情報分野の全学教育に関して、以下のような説明があった。

- ・本資料は、東京大学の中での資料である。
- ・高等学校で「情報 1」「情報 2」を全部履修すると、かなり高度な内容になる。「情報 1」でも、大学共通での内容がかなりカバーされるので、大学での情報教育をどうするかを考える必要がある。
- ・情報専門以外の情報教育は、領域情報学（最先端の情報学）、応用情報学、基礎情報（今後は高等学校で行われる）に分類できる。今後重要になるのは応用情報学である。
- ・基礎情報と応用情報学をつなぐための「気付きのための入門科目」（資料 3 の 9 ページの図の中段）が、基礎情報の次のステップに位置する全学教育として必要になってくるのではないか。
- ・東京大学の中で、全学的な情報教育を体系的にやっていくことは難しく、学年配置も難しい。したがって、現実的な方策としては、基礎情報はすべての学生が必要な時にいつでも学べるような体制が必要と感じている。また「気付きのための入門科目」は、大部分の学生がどこかで触れるようになっていることが望ましい。さらに、必要に応じて応用情報の科目が学べるようになっていることが重要と考えている。

本件に関して、以下のような意見交換があった。

- ・(久野) コンピュータサイエンスのコア部分に誘導するようなものも書かれていて欲しい。
- ・(徳山) 基礎情報の部分は、高校に任せるだけでなく、大学で学びなおす必要がある。
- ・(来住) 情報を専門としない大学生に対して十分な情報教育を行うためのカリキュラム・参照基準の整備も必要である。副専攻のモデルプランを出すのも良い。
- ・(松井) 基礎情報の下にある、さらに基礎的な数学などの部分を気付かせるような仕組みがあっても良い。
- ・(湊) 全学教育向けの教育をする人のポジション・人件費といった問題もある。
- ・(上田) コンピュータに何ができるか (what), どのようにするのか (how), なぜそれが正しいのか (why) といった切り口を、情報を専門とする人もしない人も知っておく必要がある。
- ・(今井) 数学教育と情報の関係について、皆様の御意見をうかがいたい。

4. その他

萩谷委員長より、本分科会に関連するイベントとして、情報学科専攻協議会(2019年7月20日(土)、電気通信大学で開催)の紹介があった。